

海津市まちづくり委員会「第10回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日 平成22年5月28日(金)
開催場所 海津市役所海津庁舎3階「委員会室」
分科会委員定数 14名
開 会 午後1時30分
閉 会 午後3時30分
出席者 ○分科会委員
岐阜経済大学経済学部教授 池 永 輝 之
公募市民 村 上 碩 也
公募市民 本 多 高 洲
公募市民 古 川 義 弘
公募市民 藤 田 繁 己
公募市民 堀 田 義 郎
公募市民 坂 本 由 貴
公募市民 伊 藤 祥 子
女性人材リスト登録者 安 部 晶 子
女性人材リスト登録者 石 川 晴 代

○事務局 企画政策課 課長 中 島 哲 之
" 係長 後 藤 政 樹
" 主任 毛 利 卓 司

欠 席 者 公募市民 加々本 紘 一
公募市民 柴 田 夕 子
高須生活学校代表 加 藤 佳 余 子
海津市自治連合会代表 諏 訪 薫

会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. グループワーク
 - ・人口流出対策を分野ごとに企画 【職業・職場】
 - ・企画発表
 - ・講評、助言
4. 恵那市視察研修について
 - ・平成22年6月24日(木) 海津市役所10時出発予定
 - ・内容=定住政策と地域コミュニティ活動の説明
5. その他
 - 報告書のまとめ方について
6. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第 10 回目の会議を開催させていただきます。 はじめに会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	<p>（あいさつ）</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 それでは次第にしたがいまして進めさせていただきます。 本日は、前回に引き続き個別対策について企画案を作っていたいただきたいと思います。検討時間の短縮のため、各自で対策を事前に考えてきていただくとなっておりますが、考えていただけたでしょうか。 みなさんお忙しいことと思いますので、これからは事務局も話題提供という意味で、テーマごとに企画を挙げさせていただこうと考えています。グループ討議の際、議論の材料として活用いただければと思います。＜企画資料参照＞ また、報告書のイメージがあったほうが、どこまで提案すればよいか分かるので資料を出せとのご意見がありましたので、参考までに提案書の完成イメージを回覧させていただきますので参考にしてください。 それでは、これからグループごとで議論を始めていただきます。本日のテーマは「職業・職場」です。よろしくをお願いします。</p> <p>＜グループワーク＞</p> <p>それでは、これからグループごとに発表していただきたいと思います。</p>
A委員	<p>＜企画Bグループ参照＞ テーマを働く場所ということで話し合いました。海津市内に就職したいと思える魅力的な企業が少ない、高学歴に見合った企業が少ないという問題があります。それに対する対策ですが、市内の企業が地域住民や学校にPRをしていく必要があると思います。会社概要や製品紹介、社風、募集人員等、会社一覧を整備して、広く配布してはどうか、そして明誠高校や大垣の学校を対象に企業説明会を開催してはどうかといった案がありました。 また、インターンシップの実施をしてはどうでしょうか。学校から企業に要望してもらい2、3日、企業を見学・実習してもらおうといった話が出ました。 それから職場づくりに関連して、農業の製品を加工する、漬物やキムチなど、少し加工を加える工程をつくってはどうかでしょうか。トマトであればジュースやケチャップなど、何かできるのではないのでしょうか。 それ以外に、海津には明誠高校がありますが、小学校から大学まで、教育特区をとって、一貫教育を行う。大学は、例えばオリンピックを目指すような少人数の大学とか、農作物の研究開発をするような大学をつくってはどうかといった意見がありました。 それから海津紙幣というクーポン券みたいなものを発行してはどうでしょうか。こういったことも職場作りにもつながるのではないのでしょうか。 それから実現は難しいかもしれませんが、愛知県に橋をかけるという話がありますが、それに将来鉄道を載せてもいいような設計にしてはどうでしょうか。</p>

	<p>そうすると名古屋から海津市への行き着も増え、海津に住んでもいいんじゃないかという考えも出てくるのではないのでしょうか。</p> <p>それから歴女がちょっとしたブームになっていますので、古墳など、特に南濃町には色々ありますので、それをうまくPRして女性を引き込むことができないかといった話がありました。</p> <p>＜企画Aグループ参照＞</p> <p>市内でも海津・平田は、県内でも農業の適地とされておりますが、後継者づくりも困難、年金制度等も期待できないわけですので、どうしたら生活していける農業を作っていくのかということが課題になろうかと思えます。その中で1つの考え方として、農業の企業化という方向があるのではないかと、年金制度等ともマッチングしたような企業化ができないだろうか、それによって若い人のやる気を引き出すことができると考えます。ただ、この辺りは所有地の執着が強いので、農家等の協力が得られるかどうか、この辺りを吟味していくことが必要となります。</p> <p>それから郷土意識をどう育てていくかということになりますが、小中学生、高校生、こういった人たちが学校の枠を超えて、どう交流をしていくか、それによって同じ海津市内に住む人間ということで、先々この土地への愛着を高めることができないのでしょうか。</p> <p>それから就職の機会をどう作っていくかということですが、身近で見ていると厳しい就職環境ですので、インターネット等で企業を選び、海津市内に限らず、広く名古屋、場合によっては静岡や東京まで手を伸ばして就職活動を行っているのが実情だと考えます。職場があるなしの、その前の段階で、情報が行き渡っているのだろうか。就職活動を起動しだすと、地域に限らず一生懸命就職活動をするわけですので、高校2年生とか大学3年生の前期、要は起動する前に、就職活動するエリアの情報、西濃地域あるいは隣接の桑名、尾張西部といったところに所在する企業、官庁、団体、就職可能先を網羅したものを作成し、提供することによって、海津市内からの定住を前提にした就職活動をしてもらうための支援をしてはどうかと思えます。いずれにしても市内からの通勤を前提にした就職活動ができる基本データ、ツールを提供してはどうかと思えます。</p>
B委員	
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、池永先生から先ほどの発表を受けて、ご講評または今後の検討についてご助言をいただきたいと思えます。</p>
池永教授	<p>農業の企業化など、農業を軸とした地域内活性化の話がありましたが、具体的にどんな手順や手立てがあるのか、もう少し議論を深めていく必要があります。これからは、実施に移していくまでのハードルをどうやって越えていくのか議論をしていただきたいと思えます。</p> <p>当分科会での検討課題の一つである地域コミュニティを元気にする仕掛けづくり、ということは今後議論していただきたいと思えますが、今度視察に行く恵那市の資料を見てみますと、地域自治区制をとっています。どうやって住民意見を吸い上げているのか、どのようなまちづくりが展開されているのか、海津市においてもコミュニティ活動を推進していく上で、参考になろうかと思えますので、視察研修では、みなさんと一緒に十分勉強させていただきたいと思えます。</p>

事務局

ありがとうございました。

本日、企画の発表をしていただいた件につきましては、事務局で整理させていただき、市役所関係部署に事前に情報提供をさせていただきたいと思っております。また、次回の分科会は恵那市研修になります。6月24日（木）午前10時に海津市役所を出発したいと思いますので、よろしくお願ひします。

それから、恵那市研修後の予定ですが、引き続き企画の提案を行っていただきたいと思ひます。テーマは「出産・子育て」と「教育環境」です。

なお、今後はテーマごとの議論を次回に持ち越すといった事はしない予定です。検討事項が沢山ありますので、企画の途中段階でも、毎回議論するテーマを決めて進めてまいりますのでよろしくお願ひします。

みなさんの事前企画により議論がスムーズに進行できるものと思ひますので、あらかじめ構想を持って分科会に臨んでいただけたらと思ひます。

以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第10回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。